

図画工作

図画工作科の各学年の目標はどう変わったのか。(概要)

今回の改訂では、重複していた資質や能力を整理した。

移行期の実践においては、今回示した学年の目標を基に、育成する資質や能力を明確にし、これを各学年の指導計画の作成に反映させることで、目標の確実な実現を目指すことが重要である。

この部分は変わっていない。

学年の目標は、教科の目標を受け、児童の表現や鑑賞の特性を考慮し、その実現を図るための具体的な目標である。

この部分も変わっていない。

- 学校や児童の実態などに応じ、弾力的な指導を重視する観点から、第1学年及び第2学年(低学年)、第3学年及び第4学年(中学年)、第5学年及び第6学年(高学年)の複数学年にまとめて示している。
- 各学年においては、2学年間を見通し、学年間の関連を図るとともに、一年間に必要な経験などを配慮しながら、それぞれの学年にふさわしい内容を選択して指導計画を作成し、目標の実現を目指すことになる。

学年の目標は、(1)～(3)の3点にまとめて示している。

今回の改訂で、この部分が大きく変わった。

【新学習指導要領】

- (1) 造形への関心や意欲、態度に関する目標
- (2) 発想や構想の能力、創造的な技能に関する目標
- (3) 鑑賞の能力に関する目標

【現行学習指導要領】

- (1) 造形への関心や意欲、態度に関する目標
- (2) 「A表現」に関する目標
- (3) 「B鑑賞」に関する目標

(1)は、児童が進んで表現や鑑賞をするとともに、つくりだす喜びを味わうようにする造形への関心や意欲、態度に関する目標である。

(2)は、形や色、材料などを基に、発想したり、技能を高めたりするなどの発想や構想の能力、創造的な技能に関する目標である。主に「A表現」の(1)「材料を基に造形遊びをする活動を通して、次の事項を指導する」と「A表現」の(2)「表したいことを絵や立体、工作に表す活動を通して、次の事項を指導する」に対応している。

(3)は、作品などからよさや美しさなどを感じ取る鑑賞の能力を高めることに関する目標である。主に「B鑑賞」の(1)「作品などを鑑賞する活動を通して、次の事項を指導する」に対応している。

(1)の目標は、(2)と(3)の目標のそれぞれに関連している。また、(2)と(3)の目標は互いに働き合う。目標の実現に当たっては、それぞれを相互に関連させながら児童の資質や能力の育成を図る必要がある。